

インターバンクの声（2014 年 9 月 29 日）

金曜日のニューヨーク市場朝方に発表された米第 2 四半期 GDP 確報値は、改定値からさらに上方修正された年率 4.6% となり、ドル円が再び 109 円台中盤まで上昇した。ドルは対ユーロでも 2 年近く前につけた 1.26 ドル台まで強含んでおり、ドル買いの勢いが簡単に無くなるような気配は感じられない。木曜日に低下していた米国債利回りも上昇を見せ、ダウ平均株価も一時前日比で 202 ドル高まで上昇する場面もあった。一部で懸念されたような想定外の GDP の下方修正もなく、ドルも株価もまだ上昇途上にあるように思われるが、少しだけ気になったのは、ダウが買い戻されたとは言え水曜日の終値に戻せず、ドル円も 9 月 19 日につけた高値を超えるには超えたが 109 円中盤を突き抜けられなかったところだ。こうした点に目を付け毎日のことだが、株にしても為替にしても、“そろそろ買い継続には慎重になるべき”、或いは“一旦は売りで攻めるのが定石”との意見も多くなってくるが、今週についてはこうした意見を覆すにしろ追従するにせよ、米雇用統計を筆頭に相場が動くきっかけとなる材料が数多く待っている。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。